

23	<p>ピアジェ (Piaget, J.) は、遊びの中で幼児が発するひとりごとは、幼児特有の自己中心性に基づくものであり、それ自体は、あまり意味も、コミュニケーションの機能をももたず (非社会性)、社会化が進むとともに、7歳頃には消失するものとして考え、これを自己中心的言語と名づけた。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
24	<p>ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) は、言葉には、コミュニケーションの道具として他者との間に用いられ、通常の音声を伴う発話である外言と、思考の手段として精神活動の中で用いられ、音声を伴わない心の中の発話である内言とがあり、幼児のひとりごとは、外言から内言への移行段階で生じるものと考えた。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
25	<p>ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) は、子どもの文化的発達において、あらゆる機能は最初は社会的次元で、すなわち人々の中の精神間機能としてあらわれ、次は心理的次元で、すなわち個人の精神内機能としてあらわれるとした。そして、あらゆる高次の心的機能は、その発達の過程において必ず経過する社会的段階での社会的次元の関係が内面化されたものであると考えた。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
26	<p>ヴィゴツキー (Vygotsky, L. S.) は、子どもの精神発達の水準を、①すでに完結して到達している現在の発達水準で、他者からの援助がなくても自分の力で解決できるもの、②他者からの援助を受けることによって解決できる水準の2つに分け、①から②にかけての領域を発達の最近接領域とよび、教育は発達の最近接領域に働きかけるものでなければならないとした。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
27	<p>マスロー (Maslow, A. H.) は、欲求階層説を提唱し、自己実現を、低次段階の欲求満足による高次段階の欲求の出現という欲求段階の上昇過程として捉えた。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
28	<p>マスロー (Maslow, A. H.) は、欲求の階層関係を、低次の欲求から最高位の自己実現の欲求までの5段階に大別し、自己実現の欲求以外の低次の欲求（下から順に、生理的欲求、安全欲求、所属と愛情の欲求、承認と自尊の欲求）を欠乏欲求、自己実現の欲求を成長欲求として、その相違点を明らかにしている。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

34	<p>リテラシーとは、読み書き能力、識字力のことであり、萌芽的リテラシー（プレリテラシー、エマージェントリテラシー）とは、実際に読み書きができるようになる前の子どもが遊びの中で示す、あたかも読み書きができるように振る舞うさまざまな活動をさす。</p>	□□□
35	<p>読み書きができるようになるには^{おんいん}音韻意識が必要となる。音韻とは、実際の発音から抽象された、語の意味の区別に役立つ単位としての音のことをいう。例えば、「くるま」の真ん中の音を取ると何になるかと聞かれて、「くま」と答えることができるのは音韻意識の表れである。日本語を母語とする子どもの場合、50音のそれぞれの1個の仮名が1個の音韻であるとともに、1個の音節となっていることに気づくと、急激に他の文字も読めるようになる。</p> <p>なお、「ー」（長音）、「っ」、「ん」は、例外的に、単独では音節とならない。例えば、「りんご」の音韻は3個だが、音節は「りん」と「ご」の2個となる。</p>	□□□
36	<p>メタコミュニケーションとは、互いにコミュニケーションを取るための、言葉に表れないコミュニケーションのことをいう。</p> <p>例えば、Aちゃんが、B君に、砂を入れた容器を差し出して「ご飯食べて」と言ったときに、B君が「ありがとう」と言って食べる振りをした場合、AちゃんとB君の間では、「砂はご飯ではないが、遊びで、ご飯に見立てている」という無言の合意が成立しており、メタコミュニケーションが行われていることになる。</p>	□□□
37	<p>コーピングとは、ストレス状況に直面したときに、ストレス状況を評価し、積極的に対処していこうとすることを意味する。子どもは、親子関係によって培われた自分へのコンピテンス（有能感）を自己資源として自我に取り入れ、具体的なストレスや脅威、危機的な課題状況においても、防衛することなく、コーピングができるようになる。</p> <p>なお、コンピテンスとは、ホワイト（White, R. W.）によって提唱された概念で、「生体が環境と効果的に相互作用する能力」と定義される。</p>	□□□

5	<p>記憶は、感覚記憶、短期記憶、長期記憶の3つの貯蔵装置から成り立っている。</p> <p>感覚記憶は、数秒以内で消えてしまう一時的な記憶である。</p> <p>短期記憶は、作業用の一時記憶領域にある数十秒で消えてしまう記憶であり、長期記憶に転送されることにより保持が可能となる。</p> <p>短期記憶概念を発展させたもので、認知的作業を頭の中で行うために、短い時間、ある事項をとどめておく記憶を、特に、作業記憶（ワーキングメモリー）という。</p> <p>長期記憶は、保持が可能となり、いつでも再生できる記憶とされる。</p>	□ □ □
6	<p>子どもは、7、8歳頃になると、ある事項を短期記憶から長期記憶に転送する方略として、リハーサル（反復して唱えること）を自発的に行うようになる。</p>	□ □ □
7	<p>一般的な情報の記憶である意味的記憶に対し、「今日どんなことがあったか」というような個人的な出来事や体験に関する記憶を、エピソード記憶という。</p> <p>また、自転車の乗り方、泳ぎ方のように、意識せずに、身体で覚えるような記憶を、手続き記憶という。</p>	□ □ □
8	<p>子どもが記憶の必要性を自覚して記憶場面の状況を認知するような記憶行動を調整する能力をメタ記憶といい、学童期に入ると、年齢とともに発達する。</p>	□ □ □
9	<p>学童期中期から後期にかけての時期は、ギャング・エイジ（徒党期）とよばれ、この時期につくられる凝集性の高い仲間集団をギャング集団（徒党集団）という。一方、チャム・グループは、中学生頃の女兒によくみられ、お互いの感覚が同じであり「分かり合っている」ことを確認し、誇示する仲間集団である。どちらも排他的な性質をもつ点で共通する。</p>	□ □ □

4	<p>ほいく 哺育障害とは、身体的な障害がないのに、哺乳や食事摂取が不十分で、体重が増えないという状態をいう。 愛着障害のある乳幼児に起きやすい。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5	<p>パニック障害とは、客観的には危険な状況にないにもかかわらず、パニック発作が特別な前ぶれもなく突然に、繰り返し起こることに不安をいだき、日常生活に支障をきたしている状態をいう。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6	<p>統合失調症とは、思考、知覚、感情、情緒など精神機能の多くの領域に障害が起こる疾患をいい、思春期に発症するものが多い。統合失調症では、認知機能の障害によって現実を正しく判断することができなったり、感情のコントロールが困難なため、対人関係の障害がみられる。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7	<p>統合失調症は、非社会的・敏感・内気・気まじめ等といった性格の人に多く発症する。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
8	<p>心的外傷後ストレス障害（PTSD）とは、虐待を受ける、災害、交通事故などを経験する、犯罪の被害者になるなどの心的外傷体験を契機として、激しい恐怖感や無力感に襲われるものをいう。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
9	<p>心的外傷後ストレス障害（PTSD）では、心的外傷の場面を突然鮮明に思い出したり（フラッシュバック）、心的外傷の場면을現在のことのように生々しく想起したりすることがある。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
10	<p>文部科学省の調査では、不登校を「『児童・生徒指導要録』の『欠席日数』欄及び『出席停止・忌引き等の日数』欄の合計の日数により、年度間に30日以上登校しなかった児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者（ただし、病気や経済的理由、新型コロナウイルスの感染回避によるものを除く。）」と定義している。</p> <p>なお、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」および文部科学省令でも、「不登校児童生徒」をほぼ同様に定義しているが、不登校の日数については具体的に定めておらず、「相当の期間」としている。</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

人名索引

【ア行】

ヴィゴツキー	8, 12, 50
ウィニコット	18, 41
ウォーク	22
エインズワース	16
エリクソン	7, 35, 37, 38

【カ行】

ガードナー	51
カウフマン	38
ギブソン (Gibson, E. J.)	22
ギブソン (Gibson, J. J.)	40
キャンパス	22, 39
ゲゼル	6
ゴールドスミス	39
コールバーグ	34
コンドンとサンダー	20

【サ行】

ジェンセン	6
シャファー	16
シュテルン	6
スーパー	36
スキナー	13
スターン	22
スピッツ	15